

授業計画（シラバス）

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	日本語語彙 I	総時間	前期	2×18	
									後期		
指導目標	試験対策にとどまらず、日々のコミュニケーションや社会生活における日本語運用力をつけるための語彙力を養うことを目的とする。語彙のみならず、コロケーションを用いた表現を学ぶことで、より幅広い日本語の語彙習得を目指す。										
評価方法	定期試験・出席率により評価する。										
指 導 内 容											
回数	月日	前期					回数	月日	後期		
1		衣・食・住に関する言葉①					1				
2		衣・食・住に関する言葉②					2				
3		衣・食・住に関する言葉③					3				
4		人生・娯楽に関する言葉①					4				
5		人生・娯楽に関する言葉②					5				
6		文化・国際化に関する言葉①					6				
7		文化・国際化に関する言葉②					7				
8		文化・国際化に関する言葉③					8				
9		制度・流通に関する言葉①					9				
10		制度・流通に関する言葉②					10				
11		制度・流通に関する言葉③					11				
12		芸術・学問に関する言葉①					12				
13		芸術・学問に関する言葉②					13				
14		芸術・学問に関する言葉③					14				
15		人・健康に関する言葉①					15				
16		人・健康に関する言葉②					16				
17		まとめ					17				
18		定期試験									
備考	使用教科書：コロケーションが身につく日本語練習帳 他										

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	日本語語彙Ⅱ	総時間	前期		
								後期	2×17		
指導目標	試験対策にとどまらず、日々のコミュニケーションや社会生活における日本語運用力をつけるための語彙力を養うことを目的とする。語彙のみならず、コロケーションを用いた表現を学ぶことで、より幅広い日本語の語彙習得を目指す。										
評価方法	定期試験・出席率により評価する。										
指 導 内 容											
回数	月日	前期				回数	月日	後期			
1						1		前期の復習①			
2						2		前期の復習②			
3						3		自然・科学に関する言葉①			
4						4		自然・科学に関する言葉①			
5						5		自然・科学に関する言葉①			
6						6		概念に関する言葉①			
7						7		概念に関する言葉②			
8						8		概念に関する言葉③			
9						9		学校生活・社会生活に関する言葉①			
10						10		学校生活・社会生活に関する言葉②			
11						11		学校生活・社会生活に関する言葉③			
12						12		学校生活・社会生活に関する言葉④			
13						13		学校生活・社会生活に関する言葉⑤			
14						14		まとめ①			
15						15		まとめ②			
16						16		まとめ③			
17						17		定期試験			
18											
備考	使用教科書：コロケーションが身につく日本語練習帳 他										

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	日本語聴解 I	総時間	前期	4×18	
								後期			
指導目標	日本語中上級話者が難しさを感じる抽象的・専門的なトピックの理解・情報の聞き取り・内容把握力・判断力を養成することを目的とし、日本留学試験・日本語能力試験・日常のコミュニケーションにおける聴解力を高めることを目指す。										
評価方法	定期試験・出席率により評価する。										
指 導 内 容											
回数	月日	前期					回数	月日	後期		
1		音声の聞き分け①					1				
2		音声の聞き分け②					2				
3		表現のトレーニング①					3				
4		表現のトレーニング②					4				
5		表現のトレーニング③					5				
6		推測①					6				
7		推測②					7				
8		推測③					8				
9		予測①					9				
10		予測②					10				
11		予測③					11				
12		情報の照合①					12				
13		情報の照合②					13				
14		情報の照合③					14				
15		主旨・要旨の理解					15				
16		説明箇所の特定					16				
17		提示質問の理解					17				
18		定期試験									
備考	使用教科書：聴くトレーニング基礎編・応用編 他										

学科	国際コミュニケーション科		学年	1	区分	講義	科目	日本語聴解Ⅱ		総時間	前期		
										後期	4×17		
指導目標	日本語中上級話者が難しさを感じる抽象的・専門的なトピックの理解・情報の聞き取り・内容把握力・判断力を養成することを目的とし、日本留学試験・日本語能力試験・日常のコミュニケーションにおける聴解力を高めることを目指す。												
評価方法	定期試験・出席率により評価する。												
指 導 内 容													
回数	月日	前期					回数	月日	後期				
1							1		問題演習①				
2							2		問題演習②				
3							3		問題演習③				
4							4		問題演習④				
5							5		問題演習⑤				
6							6		問題演習⑥				
7							7		問題演習⑦				
8							8		問題演習⑧				
9							9		問題演習⑨				
10							10		問題演習⑩				
11							11		問題演習⑪				
12							12		問題演習⑫				
13							13		問題演習⑬				
14							14		問題演習⑭				
15							15		問題演習⑮				
16							16		問題演習⑯				
17							17		定期試験				
18													
備考	使用教科書：聴くトレーニング基礎編・応用編 他												

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	日本語文法 I	総時間	前期	4×18	
								後期			
指導目標	小論文・口頭発表・日本語能力試験に必要な文法力をつけるため、基礎的なレベルを固め、体系的に導入・練習を用いて、複雑な文脈の理解を伴う文法への理解度を高めることを目指す。										
評価方法	定期試験・出席率により総合的に評価する。										
指 導 内 容											
回数	月日	前期				回数	月日	後期			
1		基礎編助詞①				1					
2		基礎編助詞②				2					
3		基礎編副詞①				3					
4		基礎編副詞②				4					
5		基礎編接続詞①				5					
6		基礎編接続詞②				6					
7		基礎編敬語①				7					
8		基礎編敬語②				8					
9		対策編 レベル別文型①				9					
10		対策編 レベル別文型②				10					
11		対策編 レベル別文型③				11					
12		対策編 レベル別文型④				12					
13		対策編 レベル別文型⑤				13					
14		対策編 レベル別文型⑥				14					
15		対策編 レベル別文型⑦				15					
16		対策編 レベル別文型⑧				16					
17		対策編 レベル別文型⑨				17					
18		定期試験									
備考	使用教科書：『日本語能力試験 N1 文法必修パターン』 氏原庸子・岡本牧子著 Jリサーチ出版 『日本語能力試験 N2 文法必修パターン』 氏原庸子・岡本牧子著 Jリサーチ出版										

学科	国際コミュニケーション科		学年	1	区分	講義	科目	日本語文法Ⅱ		総時間	前期		
										後期	4×17		
指導目標	小論文・口頭発表・日本語能力試験に必要な文法力をつけるため、基礎的なレベルを固め、体系的に導入・練習を用いて、複雑な文脈の理解を伴う文法への理解度を高めることを目指す。												
評価方法	定期試験・出席率により総合的に評価する。												
指 導 内 容													
回数	月日	前期					回数	月日	後期				
1							1		問題演習①				
2							2		問題演習②				
3							3		問題演習③				
4							4		問題演習④				
5							5		問題演習⑤				
6							6		問題演習⑥				
7							7		問題演習⑦				
8							8		問題演習⑧				
9							9		問題演習⑨				
10							10		問題演習⑩				
11							11		問題演習⑪				
12							12		問題演習⑫				
13							13		問題演習⑬				
14							14		問題演習⑭				
15							15		問題演習⑮				
16							16		問題演習⑯				
17							17		定期試験				
18													
備考	使用教科書：『日本語能力試験 N1 文法必修パターン』 氏原庸子・岡本牧子著 Jリサーチ出版 『日本語能力試験 N2 文法必修パターン』 氏原庸子・岡本牧子著 Jリサーチ出版												

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	日本語読解 I	総時間	前期	2×18	
								後期			
指導目標	日本留学試験・日本語能力試験に必要な読解力をつけるため、基礎的なレベルを固め、体系的に導入・練習を用いて、テクニカルな読解の解法・複雑な文脈・話題・背景への理解度を高めることを目指す。										
評価方法	定期試験・出席率により総合的に評価する。										
指 導 内 容											
回数	月日	前期					回数	月日	後期		
1		指示詞の内容					1				
2		事実関係					2				
3		ことばの意味					3				
4		話の展開					4				
5		人物の気持ち					5				
6		理由や根拠					6				
7		全体の内容					7				
8		筆者の主張					8				
9		連絡文					9				
10		情報検索					10				
11		長文A					11				
12		長文B					12				
13		対策編①					13				
14		対策編②					14				
15		対策編③					15				
16		対策編④					16				
17		対策編⑤					17				
18		定期試験									
備考	使用教科書：『日本語能力試験 N1 読解必修パターン』 氏原庸子・岡本牧子著 Jリサーチ出版 『日本語能力試験 N2 読解必修パターン』 氏原庸子・岡本牧子著 Jリサーチ出版										

学科	国際コミュニケーション科		学年	1	区分	講義	科目	日本語読解Ⅱ	総時間	前期		
									後期	2×17		
指導目標	日本留学試験・日本語能力試験に必要な読解力をつけるため、基礎的なレベルを固め、体系的に導入・練習を用いて、テクニカルな読解の解法・複雑な文脈・話題・背景への理解度を高めることを目指す。											
評価方法	定期試験・出席率により総合的に評価する。											
指 導 内 容												
回数	月日	前期					回数	月日	後期			
1							1		問題演習①			
2							2		問題演習②			
3							3		問題演習③			
4							4		問題演習④			
5							5		問題演習⑤			
6							6		問題演習⑥			
7							7		問題演習⑦			
8							8		問題演習⑧			
9							9		問題演習⑨			
10							10		問題演習⑩			
11							11		問題演習⑪			
12							12		問題演習⑫			
13							13		問題演習⑬			
14							14		問題演習⑭			
15							15		問題演習⑮			
16							16		問題演習⑯			
17							17		定期試験			
18												
備考	使用教科書：『日本語能力試験 N1 読解必修パターン』 氏原庸子・岡本牧子著 Jリサーチ出版 『日本語能力試験 N2 読解必修パターン』 氏原庸子・岡本牧子著 Jリサーチ出版											

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	時事日本語 I	総時間	前期	2×18	
								後期			
指導目標	①大学・専門学校における時事問題に関する背景知識を広げる ②単純な＋、－評価に終わらない自分の意見・立場の立脚を固める ③柔軟なアウトプットができることを目指す ④自分の意見・発表だけでなく、他人の発表・コメントに対して客観的な意見が出せることを目指す										
評価方法	プレゼンテーション・出席率・参加態度・定期試験により総合的に評価する。										
指 導 内 容											
回数	月日	前期				回数	月日	後期			
1		スタートアップ①大阪のニュース①調べよう				1					
2		スタートアップ②大阪のニュース②発表しよう				2					
3		生活トラブル①調べよう				3					
4		生活トラブル②発表しよう				4					
5		観光①調べよう				5					
6		観光②発表しよう				6					
7		教育（家庭）①調べよう				7					
8		教育（家庭）②発表しよう				8					
9		少子高齢化①調べよう				9					
10		少子高齢化②発表しよう				10					
11		日本の企業①調べよう				11					
12		日本の企業②発表しよう				12					
13		働き方①調べよう				13					
14		働き方②発表しよう				14					
15		留学生①調べよう				15					
16		留学生②発表しよう				16					
17		まとめ				17					
18		定期試験									
備考	使用教科書：パソコン、パワーポイントを使用する。 ※この科目は語学の業界で実務を有する教員等が、実務経験から生じた知識や実績を網羅した授業を行う。										

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	時事日本語Ⅱ	総時間	前期		
								後期		2×17	
指導目標	①大学・専門学校における時事問題に関する背景知識を広げる ②単純な＋、－評価に終わらない自分の意見・立場の立脚を固める ③柔軟なアウトプットができることを目指す ④自分の意見・発表だけでなく、他人の発表・コメントに対して客観的な意見が出せることを目指す										
評価方法	プレゼンテーション・出席率・参加態度・定期試験により総合的に評価する。										
指 導 内 容											
回数	月日	前期				回数	月日	後期			
1						1		日本に住んでいる外国人①調べよう			
2						2		日本に住んでいる外国人②発表しよう			
3						3		サービス①調べよう			
4						4		サービス②発表しよう			
5						5		グループ別発表準備①			
6						6		グループ別発表準備②			
7						7		グループ別発表準備③			
8						8		グループ別発表①			
9						9		グループ別発表②			
10						10		グループ別発表③			
11						11		個別発表準備①			
12						12		個別発表準備②			
13						13		個別発表①			
14						14		個別発表②			
15						15		個別発表③			
16						16		まとめ			
17						17		定期試験			
18											
備考	使用教科書：パソコン、パワーポイントを使用する。 ※この科目は語学の業界で実務を有する教員等が、実務経験から生じた知識や実績を網羅した授業を行う。										

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	日本事情 I	総時間	前期	2×18	
								後期			
指導目標	テキスト上だけでなく、実際に発信されたウェブニュースや媒体を用いて、生きた日本事情に触れる。母国の社会事情や文化との相違・近似している部分に気づき、考えを深めることを目指す。										
評価方法	定期試験・出席率・学習態度により総合的に評価する。										
指 導 内 容											
回数	月日	前期				回数	月日	後期			
1		スタートアップ①自分の国について紹介する				1					
2		スタートアップ②友だちの国・日本について紹介する				2					
3		異なりを考える①				3					
4		異なりを考える②				4					
5		異なりを考える③				5					
6		異なりを考える④				6					
7		異なりを考える⑤				7					
8		中間発表①				8					
9		中間発表②				9					
10		マイクロアグレッション				10					
11		マイノリティとマジョリティ				11					
12		ユニバーサルデザイン				12					
13		ローカルとグローバル				13					
14		ステレオタイプ				14					
15		まとめの発表①				15					
16		まとめの発表②				16					
17		フィードバック				17					
18		定期試験									
備考	使用教科書：『多文化社会で多様性を考えるワークブック』有田 佳代子 他 著 研究社 ※この科目は語学の業界で実務を有する教員等が、実務経験から生じた知識や実績を網羅した授業を行う。										

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	日本事情Ⅱ	総時間	前期		
									後期	2×17	
指導目標	テキスト上だけでなく、実際に発信されたウェブニュースや媒体を用いて、生きた日本事情に触れる。母国の社会事情や文化との相違・近似している部分に気づき、考えを深めることを目指す。										
評価方法	定期試験・出席率・学習態度により総合的に評価する。										
指 導 内 容											
回数	月日	前期				回数	月日	後期			
1						1		スタートアップ①自分の社会事情について考えよう			
2						2		スタートアップ②日本の社会事情について考えよう			
3						3		ポップカルチャー①			
4						4		ポップカルチャー②			
5						5		ポップカルチャー③			
6						6		中間発表①			
7						7		中間発表②			
8						8		国境を超える子どもの言語			
9						9		やさしい日本語について			
10						10		音を使わない言語—手話—			
11						11		〇〇語だけでいいですか？			
12						12		言語バリエーション			
13						13		まとめの発表①			
14						14		まとめの発表②			
15						15		まとめの発表③			
16						16		フィードバック			
17						17		定期試験			
18											
備考	使用教科書：『多文化社会で多様性を考えるワークブック』有田 佳代子 他 著 研究社 ※この科目は語学の業界で実務を有する教員等が、実務経験から生じた知識や実績を網羅した授業を行う。										

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	小論文	総時間	前期	2×18	
									後期		
指導目標	中級以上の留学生が書く文章において、学生自身が表現したい内容に合った文章表現が習得・運用がなされていない故に、EJUや小論文の試験において、高評価につながらない現状がある。本授業では大学入試・専門学校の小論文対策に必要な文章の書き方・読み手の立場に立脚した文章表現ができることを目指す。										
評価方法	定期試験・出席率・学習態度により総合的に評価する。										
指 導 内 容											
回数	月日	前期				回数	月日				
1		スタートアップ 文章における助詞の使い方									
2		ことばの形の使い分け									
3		自動詞他動詞受け身の使い分け									
4		呼応									
5		文末表現の調整									
6		ひらがな・漢字のバランス									
7		漢字の選択と誤変換									
8		カタカナの使い方									
9		読点の打ち方									
10		書き言葉らしさ									
11		専門用語の選び方									
12		指示詞・接続詞の使い方									
13		読み手への配慮									
14		意見と事実の区別									
15		複雑な内容の整理									
16		目上の方へのアポイントメール									
17		まとめ									
18		定期試験									
備考	使用教科書：『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』石黒圭・筒井千絵著 スリーエーネットワーク										

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	ディスカッション	総時間	前期	
									後期	2×17
指導目標	日本語中上級レベルの学生が難しさを感じる、①多面的な意見の表出②抽象的な意見・具体的な事実のバランスがとれた意見の表出 ③コミュニケーションにおいて、話題に合った適切な語彙の選定 に焦点を当てた課題解決型授業を行う。さらに、ディスカッションにおいて適切な相手の話の聞き方・自分の意見の話し方についても学ぶ。									
評価方法	定期試験・出席率・学習態度により総合的に評価する。									
指 導 内 容										
回数	月日					回数	月日	後期		
						1		スタートアップ①好きなシーンを紹介しよう①		
						2		スタートアップ②好きなシーンを紹介しよう②		
						3		困った状況絵を伝えて交渉する①		
						4		困った状況絵を伝えて交渉する②		
						5		不満に対処する①		
						6		不満に対処する②		
						7		目上の人に注意を促す		
						8		グラフや表を説明する①		
						9		グラフや表を説明する②		
						10		グラフや表を説明する③		
						11		働くことの意義について討論する①		
						12		働くことの意義について討論する②		
						13		犯罪の傾向から現代社会を語る①		
						14		犯罪の傾向から現代社会を語る②		
						15		設定テーマ①		
						16		設定テーマ②		
						17		フィードバック		
備考	使用教科書：『上級から超級へ 日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現』 荻原稚佳子他 著 スリーエーネットワーク									

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	講義	科目	進学対策	総時間	前期	2×18	
									後期		
指導目標	学生たちが志望する学部・大学・専門学校において必要な対策を行う。具体的には ① 志望学部・専攻内容への理解 ② 各大学・専門学校の特徴への理解 ③ 志望理由書・面接での適切な書き方・話し方										
評価方法	定期試験・出席率・学習態度により総合的に評価する。										
指 導 内 容											
回数	月日	前期				回数	月日				
1		スタートアップ1年後・4年後・10年後の自分を想像しよう									
2		何を学ぶ？①観光									
3		何を学ぶ？②経済・経営									
4		何を学ぶ？③IT									
5		何を学ぶ？④異文化コミュニケーション									
6		何を学ぶ？④サービス									
7		何を学ぶ？⑤自動車・機械									
8		何を学ぶ？⑥法律・政治									
9		何を学ぶ？⑦社会学									
10		何を学ぶ？⑧文学									
11		何を学ぶ？⑨製菓									
12		何を学ぶ？⑩その他									
13		オープンキャンパス報告会①									
14		オープンキャンパス報告会②									
15		志望理由書を書こう①									
16		志望理由書を書こう②									
17		志望理由書を書こう③									
18		定期試験									
備考	使用教科書：オリジナル教材										

学科	国際コミュニケーション科		学年	1	区分	演習	科目	JLPT演習 I		総時間	前期	2×18	
										後期			
指導目標	JLPT N1合格に必要な抽象的な語彙・複雑な文脈の文法問題・速さと正確性を問われる読解問題・複雑な会話のやり取りの中で話者の意図をくみ取る聴解問題の演習に慣れ、高得点での合格を目指す。												
評価方法	課題提出状況・出席率・学習態度により総合的に評価する。												
指 導 内 容													
回数	月日	前 期					回数	月日	後 期				
1		問題演習①					1						
2		問題演習②					2						
3		問題演習③					3						
4		問題演習④					4						
5		問題演習⑤					5						
6		問題演習⑥					6						
7		問題演習⑦					7						
8		問題演習⑧					8						
9		問題演習⑨					9						
10		問題演習⑩					10						
11		問題演習⑪					11						
12		問題演習⑫					12						
13		問題演習⑬					13						
14		問題演習⑭					14						
15		問題演習⑮					15						
16		問題演習⑯					16						
17		問題演習⑰					17						
18		定期試験											
備考	使用教科書：『新完全マスターシリーズ 日本語能力試験N1』（聴解・読解・文法・語彙）友松悦子，福島佐知，中村かおり 著 スリーエーネットワーク												

学科	国際コミュニケーション科		学年	1	区分	演習	科目	JLPT対策Ⅱ		総時間	前期		
										後期	2×17		
指導目標	JLPT N1合格に必要な抽象的な語彙・複雑な文脈の文法問題・速さと正確性を問われる読解問題・複雑な会話のやり取りの中で話者の意図をくみ取る聴解問題の演習に慣れ、高得点での合格を目指す。												
評価方法	課題提出状況・出席率・学習態度により総合的に評価する。												
指 導 内 容													
回数	月日	前 期					回数	月日	後 期				
1							1		問題演習①				
2							2		問題演習②				
3							3		問題演習③				
4							4		問題演習④				
5							5		問題演習⑤				
6							6		問題演習⑥				
7							7		問題演習⑦				
8							8		問題演習⑧				
9							9		問題演習⑨				
10							10		問題演習⑩				
11							11		問題演習⑪				
12							12		問題演習⑫				
13							13		問題演習⑬				
14							14		問題演習⑭				
15							15		問題演習⑮				
16							16		問題演習⑯				
17							17		定期試験				
18													
備考	使用教科書：『新完全マスターシリーズ 日本語能力試験N1』（聴解・読解・文法・語彙）友松悦子，福島佐知，中村かおり 著 スリーエーネットワーク												

学科	国際コミュニケーション科	学年	1	区分	演習	科目	卒業制作	総時間	前期	
									後期	2×17
指導目標	来日後から培ってきた日本語能力・本学科でブラッシュアップしたプレゼンテーション能力を実際のプレゼンテーションの場で発揮し、聞き手と活発な議論ができることを目指す。卒業成果・制作発表会の場で発表する。									
評価方法	授業への参加度・出席率・課題提出・学習態度により総合的に評価する。									
指 導 内 容										
回数	月日								後期	
						1			スタートアップ・去年の発表を見てみよう！	
						2			チーム決め・テーマ探し①	
						3			テーマ探し②	
						4			グループワーク①発表内容を検討する	
						5			グループワーク②発表内容を検討する	
						6			グループワーク③発表内容を検討する	
						7			パワーポイントの使い方①	
						8			パワーポイントの使い方②	
						9			グループワーク④発表資料を作成する①	
						10			グループワーク⑤発表資料を作成する②	
						11			グループワーク⑥発表資料を作成する③	
						12			発表練習をする①	
						13			発表練習をする②	
						14			発表練習をする③	
						15			発表練習をする④	
						16			発表練習をする⑤	
						17			卒業成果・制作発表会	
備考	使用教科書：レジメ PC、プロジェクター、モニターを使用する。									